

平成24年度 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会 議事概要

○日時：平成25年2月18日（月） 14:00～16:20

○場所：大野市役所 3階 大会議室

○議事：○規約の改正

(1)平成23年度 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会 議事概要

(2)平成24年度の各機関の取り組み状況

(3)平成25年度の活動について

1. 規約の改正について

規約第6条に規定する事務局の構成員である大野市の組織変更等に伴う規約改正の提案が事務局より行われ承認された。

2. 平成24年度の各機関の取り組み状況及び平成25年度の活動に関する主な発言内容について、水源地域ビジョンの施策の体系毎に整理した内容は、以下のとおりである。

(1) 森 林

1) 森林の保全・育成

- ・ 荒廃した管理されていない山が増えている。この里山をどう管理していくかというのは今後の課題であると思っている。
- ・ 森林林業を通じ森林と自然の重要性を理解してもらい取り組みを実施している。今後、森林林業以外でも枠を広げた何か取り組み等も必要である。
- ・ 水を満たす森林整備に力を入れており、今後も引き続き整備を進めていく。

2) 森林資源の活用

- ・ 嶺北一帯で植樹活動や川の清掃等を行っている。ダムの上流を含めた源流域を教育の場に使うということが重要なポイントであり、溪流や源流に子供の教育を含めて近づける施策が大事である。それを河川行政、民間、ボランティア団体で連携し、事業活動を補助、支援する仕組みが必要である。
- ・ 現在は、農業の効率化だけではなく環境を守っていく姿勢で取り組みを進めている。森林関係では、針葉樹の植林が多かったが、間伐をしながら広葉樹を植えて、そこへ水をためることで、下流への水源となるよう活動している。また、陽明の森として陽明中学校にお願いし、植林活動や手入れとかを実施している。
- ・ 森林環境教育等の活動に取り組んでいる。取り組みを通じてサポートできることは協力していきたいし、一緒に考え、よりよい方向に向くように取り組んでいきたい。なお、危険が伴うので、サポート体制、指導者の養成等も重要である。
- ・ 自然と親しむときには、非常に厳しい自然もあるという事も踏まえながら活動をし、山へ入り源流へ行くと厳しい自然環境になり、どうしても危険を伴った体験するという事を忘れないように、指導していくことが必要である。

(2) 水

1) 健全な水環境整備

- ・湧水文化の中で、土地改良需要においても実際に農業をする農家の方もよくなる、また地域もよくなる等の様々な指標を考えていきたい。
- ・ダムのできる前は、毎日真名川で遊んだ記憶がある。真名川ダムができて真名川も様変わりし、子供が遊べるような場所がどんどんなくなった。最近、かなり環境はよくなったが、子供が遊べるような環境がもう少し整備されたらいいと思う。
- ・水源地域を守る活動ができているおかげもあり、川の状況、魚の生育環境は非常によくなってきている。

2) 水環境の啓発

- ・一昨年に1匹、昨年1匹、コクチバスが大野の漁場でも捕獲されている。追跡調査もしたが、繁殖の状況は今のところ確認していない。

(3) 交流

1) 人材・組織の育成

- ・川遊びについて、子供の場合は非常に危険が伴うので慎重に行っている。川の生き物を探している中で、危険な生き物に対しての習性などを説明することができ、非常に危険がつきまとうこと、それをとにかく事前に察知してどのように回避していくか、どのように不安な材料を排除していくのが大事である。
- ・地元地域の子供たちや親がもっと参加できるような仕組みが必要である。
- ・教育の中にも、学校教育、地域教育、家庭教育、社会教育など、いろんな教育があり、そういう関わっている人たちがいろんな手段を使って子供たちと関わっていく機会を多くつくっていったらいい。自然と関わることは、全ての学校でも、地域でも、いろんな教育の中に必ず入るべきである。
- ・親の背中を見せることで青少年に対しての教育の方向性を考えている。その中で、水辺の環境、触れ合う機会をつくっていきたい。
- ・かつては地域の中で子育て、見守りができて、ここまでしたら危険だというような地域で子育てが出来ていたが、今は子供の絶対数も減る中で、町内での交流もすごく希薄化してきている。畑を借りて、自分たちでつくったもので料理教室等を開催しており、参加者も増えてきている。福祉のまちづくりということを考える中で、大人が子供の方へ目を向けていく取り組みなどもやってみたい。

2) 水辺環境の活用

- ・アユを川へ放流するなどの活動も、子供たちの将来のことを思うと大変有意義と思う。そういった活動を含め、できることをやっていきたい。
- ・大野でも、真名川や九頭竜川で川遊びができ、泳げるような環境が復活したら良いと思っている。
- ・危険というのは、全部排除してしまうのではなく、教育の場にしていくことを考え、説明し、見てもらい、体験してもらう必要がある。
- ・川遊びや自然体験というのは子供たちにとって極めて大切なことと思っている。子供

たちの危険予知能力や危険防御能力が育っていないから危険な目に遭っている。

- ・ 基本的に自然体験は学校でなく、家庭や地域が行うものだと思う。自然体験、農業体験、お手伝い体験などを積極的に取り入れていかなければならないのが家庭教育であり地域教育なのかと思う。
- ・ 子供の頃、学校から家に帰ると、とにかく川へ向かって飛んで行って、川に育てられたという経験がある。様々な自然に関わる団体と協力しながら、親が子供と一緒に自然の中に行ける機会をつくってかないと、発展や広がりが無い。
- ・ 自然体験というのは極めて貴重であり重要な要素だと思う。これからも体験を尊重した教育を進めていきたい。

3) 広域交流の促進

- ・ 最近、マラソン人口というのが非常に増えているため、新緑マラソン、あるいは紅葉マラソンを考えてもらいたい。都市の住民との交流には非常に効果的と考えられる。
- ・ 紅葉まつりの中で、今年度初の試みとして発電所見学ツアーを実施し、2日間で50数名の方が来てくれた。今エネルギーへの関心が高まっている中、水力発電は、大野市域環境と共生し、地域の皆様のご理解の中で存在して運営していける。エネルギーと環境の共生という面で、大野市域や市外からも人が来てもらえるよう、地域に貢献していきたい。

(4) まとめ

- ・ 各機関、団体の活発な取り組みに感服した。これをさらに継続、発展させるため、来年度は連携の強化をお願いしたい。非常に活発なご意見をいただいた子供、親も含めた自然体験は非常に重要であり、各機関のご支援もお願いしたい。
- ・ 連携が非常に大事で、それぞれの団体機関が、自分たちのやっていることをお互いに共有しながら、それぞれの取り組みの充実を図っていくこと。平成32年度までの大野市の第5次総合計画では、ふれあい交流人口年間200万人を増やすことを目指して取り組みを進めている。それぞれの皆さんの取り組みが、年間ふれあい人口、入り込み人口200万人につながっていく。大野市も皆さんの取り組みを広報、宣伝することに協力していく必要性を改めて感じた。現在大野市が進めているブランド戦略でも広報の進め方が一番重要な課題である。この課題への取り組みの中で流域ビジョンのメンバーの方々の活動・広報にも協力していく、そういう体制づくりが必要と思う

以 上